

美味しい街は、住んでみたい街

栃木県茂木町 田中のり子

全米一住みやすいと言われているポートランド。今回は、住民主体のまちづくりについての研修でしたが、私はひそかに、「食」というテーマも持って参加しました。

ポートランドのマルシェ「ファーマーズマーケット」

初日に訪れたファーマーズマーケットでは、ポートランド産の色とりどりの野菜、果物、花、乳製品、地元の食材を調理するフードカートも数多く出店していました。客層も地元（だと思われる方も含む）の方が多く、地産地消ですと気張ることなくあくまで自然体で繰り広げられている点に驚きました。ポートランド市内では主な公園でファーマーズマーケットが開催されており、約250軒の農家が出店しています。農家直売で新鮮でオーガニックなものが手に入る分、値段は高めですが、その価値を認めるライフスタイル層がいるからこそ成立するのです。



生活が垣間見えるスーパーマーケット

市内散策で、地元のスーパーマーケットでもインタビューを行い、「子どものために、安全で健康的な食べ物を買うことにしている」、「地元の野菜を買うことで農家を応援したい」などという意見を聞きました。しかし、日本のJASのような規制はなく、公的認証機関で検査をするという任意レベルのため、本物のオーガニック野菜を保護するためにも早急に証明制度を作ることが必要だと強く感じました。また、一部の大手スーパーに見られる、「消費者への食の安全を提供したい」というよりも、これをチャンスに高値の食材を売って儲けたいという意図も存在するので、消費者も正しく判断して賢い選択をすることが求められます。



サステナブルな町へ

住んでみたい都市として評価の高いポートランドには、日本では歓迎されるスターバックスコーヒーなどのチェーン店よりも、地元密着型のコーヒーショップに行こう、地元食材を使用しているレストランに行こうという気質がありました。これは、自分の住んでいる街を誇りに思い、地元のものを守っていこうという意識があるからではないでしょうか。

また、前述したようにポートランドには、地元の食材をベースにした独特の食文化があります。ファーマーズマーケットやオーガニックスーパーマーケットなどが、食に関するライフスタイルショップとして立地し、健康的な食べ物が多様に展開しているポートランド市は、住む人にとって魅力あるまちといえます。

Put people first.

イブニングサイトビジットで、マルトノマ・ネイバーフッド・アソシエーションを訪問し、食べ物に困っている住民を地域で支える仕組みを見学しました。パンや新鮮な野菜、日用品などオレゴンフードバンクや地域住民、農家が寄付してくれたものを、ボランティアスタッフが仕分け・配布をしています。「私たちの目標は生活の質を高め、困ったときに声をあげる機会をつくることです」と穏やかに説明してくださったランディさんが「Put people first.」（まずは市民のことを考えること）という言葉も贈ってくださいました。私は、まちづくりはこの一言に尽きると思います。誰のために、なぜこの仕事をするのか、今までどおり住民のことを最優先に考え、茂木町が「日本のポートランド」と言われるようなまちづくりを進めていきたいです。

また、私が入っていたポートランド市内散策グループ”Team MANABU♡”は、ポートランド研修の振り返りとして、日米の住民と行政の間柄の違いをスキット（寸劇）で演じました。誰にでもわかりやすく、頭に絵が浮かぶように説明するには、より簡単でわかりやすい言葉で、可視化することが必要です。

そして、一緒に演じる仲間も必要です。ポートランドでは「住民との信頼関係」という言葉を何度も耳にしました。身近な人と信頼関係を築けなければ、住民と信頼関係を築くことは困難です。「一期一会 会者定離」の気持ちを忘れず、まずは目の前の人のために自分は何ができるかを考え、強い信頼関係を築いていきたいです。

PSUのスタッフの皆さん、東京財団の皆さん、東京財団週末学校の2013同期生、そして長期間こころよく送り出してくれた職場の上司・同僚、家族に感謝しています。ありがとうございました。

▼Team MANABU♡



▼JaLoGoMa Ladies

